

令和8年
2026年

3月12日
木曜日

第11908号

食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日
第三種郵便物認可

購読料（前納）
年間 82,080円
（税込み）
6カ月 42,120円
（税込み）

本紙は関連企業・団体との
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社
〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10
TEL03-6206-0929 FAX03-6206-0928

大阪本社
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-1-2
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



食肉産業展開催中、多数の業界関係者が来場……P2

- ▶ 初日は1万7千人超が来場—食肉産業展…… P2
- ▶ 最近の食肉をめぐる状況①牛肉価格—日本食肉流通センター…… P2～3
- ▶ 1月牛マルキン、肉専用種は3道県で交付、交雑種は4カ月連続交付なし…… P4
- ▶ [調理食品支出金額・1月] 合計1万3470円で5・8増…… P5
- ▶ 食ベログ「食ベログハンバーガー百名店2026」を発表…… P5
- ▶ 中国食肉生産1億t突破、それを支える家畜防疫の現状…… P6～7

注目のヘッドライン

初日は1万7千人超が来場—食肉産業展

東京ビッグサイトで13日まで「第50回食肉産業展2026」が開催されている。東京ビッグサイト東7ホールを会場に、「FOODEX JAPAN」と同時開催している。…詳細はP2

1月牛マルキン、肉専用種は3道県で交付、交雑種は4カ月連続交付なし

…詳細はP4

- ▶ 水迫畜産の牛の牛種、原産地、個体識別番号の不適合表示に対する措置—農水省が指示および勧告…… P7
- ▶ [資料] 家計調査 県別畜肉系総菜消費ランキング（2023～25年平均）…… P8
- ▶ [資料] 日本食肉流通センター週間市況〈和牛・交雑牛・乳牛チルド〉…… P9
- ▶ [東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数]11日…… P10
- ▶ [各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場]11日…… P11

50th
食肉産業展
Japan Meat Industry Fair
50th Anniversary

受事前登録中

国内で唯一 **最大級の食肉総合見本市**

第50回 **2026食肉産業展**

2026 Japan Meat Industry Fair 50th.

会期◎ **2026年3月10日(火)⇒13日(金)**

会場◎ **東京ビッグサイト**

主催◎ 食肉産業展実行委員会
後援◎ 農林水産省、厚生労働省ほか

半世紀の集大成を
未来へつなぐ

圧倒的開催規模!

フード業界が最も注目する
国内最大規模の総合見本市

アジヤ最大級の食品・飲料総合展示会
The 50th International Food and Beverage Exhibition

同時開催 **FOODEX JAPAN 2025**

食肉産業展HP

食肉産業展HPはコチラ ▶ <https://www.shokuniku-sangyoten.jp> 食肉産業展東京事務局 ☎03-6206-0929

初日は1万7千人超が来場—食肉産業展

既報の通り、東京ビッグサイトで「第50回食肉産業展2026」が開催されている。10日から13日までの4日間、東京都江東区の東京ビッグサイト東7ホールを会場に、59社174小間が出展。「FOODEX JAPAN」と同時開催している。展示棟は東4～8ホール、西展示棟、南展示棟を使用。東7～8ホール、南展示棟は午前9時半から午後5時まで、東4～6、西展示棟は午前10時から午後5時まで。最終日は全会場とも午後4時半まで。

開幕初日の10日は1万7137人(同時開催のFOODEX JAPANとのトータル集計、前年=初日1万7125人)と前年並みの来場があった。2日目は天候にも恵まれ、これを上回る来場者数が期待される。ブースでは前日に続き、各社の新製品が提案され、各分野のバイヤーたちの注目を集めた。

主催者企画である銘柄ポーク好感度コンテスト(第19回国産銘柄ポーク好感度コンテスト)、第1回輸入ブランドポーク好感度コンテスト)では投票者数が前日を上回った。国産銘柄ポーク部門の参加者からは「脂がくどくなくて、甘みを感じた」「もともちとした食感やジューシーさ、香りと味わいのバランスが良い」といった声がきかれ、輸入ポーク部門の参加者からは「一度に多銘柄を食べ比べる機会はなかなかなく、面白い取り組み」「弾力があるけど硬くなくておいしいのが新たな発見だった」「食感の違い、風味の違いを楽しめた」といった好意的な声が多かった。各部門それぞれで200人以上が試食投票に参加。初日の投票数と合わせた総合結果が12日に発表され、同日



には入賞ブランドを含む全銘柄の試食会の実施も予定している。

また、FOODEXステージ(西展示棟アトリウム)では食肉産業展50回記念特別企画「安全性・多様性・エシカルが交差する“今”のオーギーミート～グラス&グレイン&ラムを食べ比べ～」を開催。MLAの三橋一法フードサービス・シニアマネジャー(下写真)が登壇し、食肉通信社による生取材を行った他、3種類のオーギーミートの食べ比べ会を実施した。(セミナーの様子は後日詳報)

最近の食肉をめぐる状況①牛肉価格—日本食肉流通センター

公益財団法人日本食肉流通センターは、2022年以降の国産牛肉・豚肉を中心とした部分肉価格の動向と食肉の消費・販売動向を分析。「最近の食肉をめぐる状況」(26年2月報告)として次のように報告した。

和牛、交雑牛および乳牛について、部分肉のうちロイン、ヒレ、トモバラ、ウチモモの四つの主要な部位の取引価格と枝肉の卸売価格に着目し、それらの価格の動きを比較している。比較には、価格を指数化し

て相互の比較をやすくし、部分肉の価格データは、同センターが月ごとに取りまとめている首都圏の部分肉価格のうち、重量中央値を用いている。また、枝肉卸売価格は東京食肉市場の価格を用いている。価格の指数化については、和牛チルド「4」、交雑牛チルド「3」、乳牛チルド「2」ごとに22年を基準(100)として各月の価格を指数(以下、価格指数)にした。

[和牛] 和牛の需要動向を、枝肉の価格指数の動

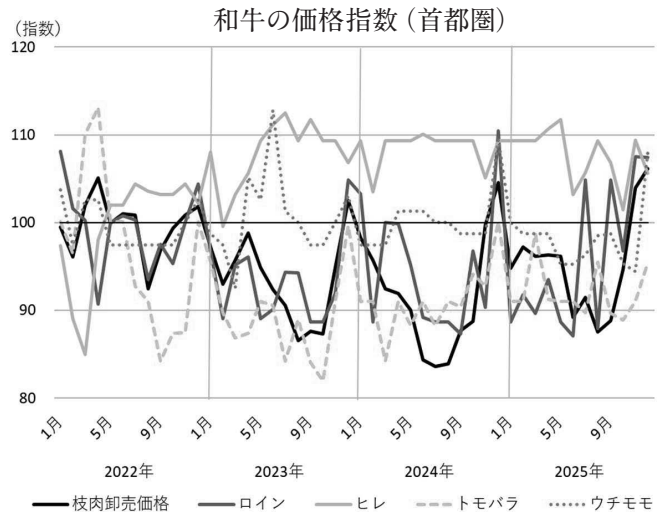
きでみると、12月が最需要期であるため、例年年末に向けて枝肉の卸売価格は上昇し、年明けに低下する傾向にある。近年は、物価の上昇による消費者の生活防衛意識の高まりにより、低下傾向で推移するようになった。特に24年は夏場を中心に大きく落ち込んだが、24年12月は前年を上回った。25年になると前年ほどの落ち込みはなく、12月も前年を上回った。

この間の部分肉の需要動向を部位別の価格指数でみると、部位によっては枝肉とは異なる動きがみられた。ロインは、輸出の主要部位となっているが、高級な部位であるため、国内需要では、消費者の節約志向の影響を受けて低迷し、特に、23年以降は価格指数が90を切る月がみられるようになった。ヒレも代表的な高級部位だが、コロナ規制措置がなくなり、ホテル、レストランなどの営業が本格化してきた22年頃から、需要が急速に回復して、同年後半からは価格指数が100を超えて推移した。その後は110程度で推移するなど、一時は食肉事業者から、ヒレが不足しているとの声もあった。トモバラは、焼き材等として家庭内外とも需要が根強く、コロナ下でも家庭需要に支えられて、22年前半までは価格指数も100を超えて推移した。しかし、その後、需要も一巡し、食肉業界では荷余り感があるとの声も出初めた22年半ばから100を割り込み、低迷して推移している。ウチモモは赤身を特徴とし、価格は比較的安く、需要が堅調であったことから、枝肉の低迷が顕在化する23年以降でも価格指数は安定的な推移となった。

[交雑牛] 交雑牛の需要動向を、枝肉の価格指数でみると、消費者の生活防衛意識が高まっている影響から、23年に入ると指数は100を割って推移したが、同年末から需要が回復し100を超えて上昇傾向で推移している。この時期には回復がみられなかった和牛の価格とは対照的な動きとなった。

部分肉の価格指数の動向をみると、ロインは23年から低下傾向となったが、和牛に比べて手頃な価格帯なことから需要は手堅く、24年以降は指数が100を上回る水準に回復して推移した。

ヒレは、和牛と同様に外食需要の回復に伴って価格指数は上昇傾向となり、23年から100を超えて推移した。トモバラは、和牛と同様に22年半ばから価格指数は下降傾向となったが、輸入トモバラの輸入量の減少や価格上昇の影響もあって交雑牛トモバラ



の引き合いが強まり、価格指数は23年10月以降大きく上昇している。ウチモモは、安定した需要に支えられて価格指数も安定して推移してきたが、24年3月以降は、やや高い水準で推移している。

[乳牛] 乳牛の需要動向について、枝肉の価格指数でみると、23年に入り低下傾向となり同年後半には大きな落ち込みとなった。しかし、24年になると価格指数は上昇に転じ、25年12月の価格指数は112・2と高い水準となった。

部分肉の価格指数の動向をみると、ロインは、和牛や交雑牛よりも手頃な価格帯であることから輸入品の代替となり、22年半ばから需要が戻って価格指数は上昇傾向となり、100を超えて安定した水準で推移している。ヒレは、外食需要の回復に伴って22年7月以降は100を超えて高い水準で推移している。食肉事業者からは、乳牛のヒレなどは値頃感があってもっと欲しい商品であるが、乳去勢牛の出荷頭数が年々減少して手に入りにくくなっているとの声が多くあった。トモバラは、輸入トモバラの価格変動の影響もあって価格指数は上下しながら推移していたが、25年4月以降上昇し、同年10月以降は110を超える水準となっている。ウチモモは、経済活動の再開により22年6月には100を超えたものの、その後は100を下回る水準で推移した。24年12月以降上昇し、25年11月以降は110を超える水準となっている。

[輸入牛肉] 為替の円安傾向、現地価格の高騰などによる輸入牛肉価格の上昇に伴い、主な部位の価格も上昇している。このような中で、24年7～8月にはトモバラ(米国産チルド・ショートプレート)、25年12月にはヒレ(豪州産チルド・テンダーロイン)の価格指数が140・0に到達している。(連載続く)

1月牛マルキン、肉専用種は3道県で交付、交雑種は4カ月連続交付なし

農畜産業振興機構は11日、令和8年1月分肉用牛肥育経営安定交付金(牛マルキン)の標準的販売価格および標準的生産費、交付金単価(概算払い)を公表した。

肉専用種は、標準的生産費が標準的販売価格を上回らなかったことから、交付金単価が肉用牛1頭当たり北海道で1万9200・8円、群馬県で8499・8円、山梨県で7478・3円が交付される。全国的に牛枝肉価格が回復してきていることが背景にあり、その他の地域では交付はない。標準的販売価格は兵庫

県の143万2798円が最も高く、次いで石川県の133万3354円、岐阜県、愛知県、三重県の東海ブロックが125万5270円となっている。一方、標準的生産費は、交付金が交付される3道県は120万~130万円台、兵庫県は140万円台となっているが、その他の地域では110万円台となっている。なお、石川県と兵庫県は都道府県標準販売価格が、全国一律を区域として算出した標準的販売価格に、都道府県標準販売価格の標準偏差の2倍の額を加えた額を上回ったことから、単独で標準的販売価格の算定を行っている。

交雑種は生産費が74万3640円となり、販売価格の78万2058円を下回ったことから、交付が行われないのは4カ月連続となる。一方、乳用種は生産費が52万8536円となり、販売価格の48万7020円を上回ったため、交付金単価は3万364・4円となった。

単位:円/頭

区分	交雑種	乳用種
標準的販売価格(A)	782,058	487,020
標準的生産費(B)	743,640	528,536
差額(C)=(A)-(B)	38,418	△ 41,516
暫定交付金単価(概算払い)	-	30,364.4

※交付金単価は差額に100分の90を乗じた額から7千円を控除した額

肉用牛1頭あたりの交付金単価の算出結果(肉専地域別)

区分	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県
標準的販売価格(A)	1,176,412	1,176,715	同左					1,196,524
標準的生産費(B)	1,205,524	1,182,914	1,140,230	1,174,356	1,128,776	1,124,588	1,183,571	1,190,082
差額(C)=(A)-(B)	△ 29,112	△ 6,199	36,485	2,359	47,939	52,127	△ 6,856	6,442
暫定交付金単価(概算払)	19,200.8	-	-	-	-	-	-	-

栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	山梨県	長野県	静岡県	新潟県
1,196,524	同左								1,207,216
1,193,224	1,213,746	1,190,479	1,165,464	1,181,037	1,186,946	1,212,611	1,183,229	1,154,964	1,155,170
3,300	△ 17,222	6,045	31,060	15,487	9,578	△ 16,087	13,295	41,560	52,046
-	8,499.8	-	-	-	-	7,478.3	-	-	-

富山県	石川県	福井県	岐阜県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県
1,207,216	1,333,354	1,207,216	1,255,270	同左		1,200,682	同左		1,432,798
1,175,822	1,164,052	1,162,253	1,196,484	1,158,447	1,143,808	1,159,331	1,171,942	1,128,065	1,401,580
31,394	169,302	44,963	58,786	96,823	111,462	41,351	28,740	72,617	31,218
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県
1,200,682	同左	1,196,958	同左				1,223,158	同左	
1,134,889	1,103,093	1,183,741	1,123,137	1,134,412	1,134,401	1,120,515	1,168,871	1,160,738	1,124,456
65,793	97,589	13,217	73,821	62,546	62,557	76,443	54,287	62,420	98,702
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県
1,223,158	1,206,283	同左						1,204,750
1,072,756	1,166,339	1,169,096	1,166,622	1,173,617	1,134,791	1,154,444	1,162,923	1,107,474
150,402	39,944	37,187	39,661	32,666	71,492	51,839	43,360	97,276
-	-	-	-	-	-	-	-	-

【調理食品支出金額・1月】合計1万3470円で5・8増

総務省家計調査(既報)によると、1月の調理食品支出金額は1万3470円(前年同月比5・8%増)と前年超えが続いている。

弁当や調理パンなどの主食的調理食品の支出金額は5898円(4・8%増)と引き続き増加。他の調理食品もサラダ以外の品目が全て前年を上回り7572円(6・7%増)となった。このうち焼き鳥は235円(12・4%増)と伸長し、冷凍調理食品は984円(9・0%増)、天ぷら・フライは1153円(8・1%増)、カツレツは193円(7・8%増)、ハンバーグは138円(7・0%増)、シューマイは101円(5・2%増)、ギョーザは172円(4・2%増)、コロッケは192円(3・2%増)だった。

調理食品支出金額

	11月		12月		令和8年1月	
	金額	増減	金額	増減	金額	増減
調理食品	13,971	108.7	17,708	103.7	13,470	105.8
主食的調理食品	5,969	109.5	6,495	101.4	5,898	104.8
弁当	1,652	110.1	1,553	99.7	1,479	102.9
すし(弁当)	1,250	111.0	1,680	97.7	1,530	107.7
おにぎり・その他	536	103.5	513	94.1	466	96.3
調理パン	596	106.4	595	104.8	559	104.9
他の主食的調理食品	1,936	111.0	2,154	107.0	1,863	106.2
他の調理食品	8,002	108.1	11,213	105.0	7,572	106.7
うなぎのかば焼き	106	110.4	149	117.3	102	113.3
サラダ	537	98.5	593	97.1	513	92.9
コロッケ	204	107.4	192	99.0	192	103.2
カツレツ	191	99.5	190	112.4	193	107.8
天ぷら・フライ	1,154	108.4	1,510	104.9	1,153	108.1
シューマイ	103	105.1	100	95.2	101	105.2
ギョーザ	179	108.5	165	96.5	172	104.2
焼き鳥	217	98.2	238	90.8	235	112.4
ハンバーグ	144	101.4	140	100.7	138	107.0
冷凍調理食品	1,006	111.2	1,162	114.1	984	109.0
総菜材料セット	378	111.2	514	124.5	341	102.7
他の調理食品のその他	3,783	109.9	6,262	103.9	3,448	108.2

資料:総務省「家計調査報告(全国・全世帯1世帯あたり品目別)」

食べログ「食べログハンバーガー百名店2026」を発表

㈱カカクコムが運営するレストラン検索・予約サービス「食べログ」は10日、食べログユーザーから高い評価を集めた「食べログハンバーガー百名店2026」を発表した。「うまいもの、いま食べるなら、このお店。」をコンセプトに、ジャンルごとに高い評価を集めた100店を発表するグルメアワード。2017年から数々のジャンルで毎年発表しており「ハンバーガー百名店」は7回目。

今回は東京都から44店、大阪府から7店・沖縄県から6店が選出され、「食べログハンバーガー百名店」に過去6回選出されている「ブラザーズ人形町本店」のテイクアウト専門店「ブラザーズテイクアウト人形町店」(東京都中央区)をはじめ、パティやベーコンのみならず、バンズにまで丁寧に炭の香りをまとわせた、芳醇な燻香を楽しめる「BurgerCafe honohono」(埼玉県川越市)、当日びきの千葉県産牛を、自家製タルタルが引き立てる「ばーがー時々洋食亭」(千葉県松戸市)、フルーツと牛100%パティが奏でる、新感覚の調和を楽しめる「LITOR」(沖縄県那覇市)など24店が初選出となった。初選出店は次の通り(店名/エリア)

atami/東京都、
OVERWHELM
HAMBURGER &
BAR STAND/同、
CANNONBALL
DINER/同、
THE GRABBER



hamburger pub/同、潮見スキッパーズ/同、
ジューシーオールスターズ ハングリーヘブン
/同、Chillmatic Hamburger & Bistro/同、
TEDDY BROWN/同、ブラザーズ テイクアウト
人形町店/同、BOSSA BURGER/同、WAGYU
BURGER HIROKIYA/同、Cow Burgers/福島県、
BurgerCafe honohono/埼玉県、バーガーズカフェ
ビーチ ストーリー/同、BurgerPOLICE 春日部/同、
ばーがー時々洋食亭/千葉県、米国食堂 マンドリン
ハンバーガーキッチン/同、ザ マンチーズ バーガー
ワークス/大阪府、フライ ボーイ バーガー&コーヒー
/同、フランク ライドアンドイート/同、Cozzýs/岡山
県、HAMBURGER SHOP 富吉/福岡県、Warren's
Place 2.1 Burgers & Beer/沖縄県、LITOR/同

中国食肉生産 1 億 t 突破、それを支える家畜防疫の現状

2025年、中国の家畜・家禽肉生産は1億72万tと統計上、初めて1億tの大台を記録した。内訳をみると、豚肉が5938万t、牛肉が801万t、羊肉が496万t、家禽肉が2837万tとなっている。こうした中、中国農業農村部が管理する広報媒体は2月11日、豚肉と家禽肉(主に鶏、あひるおよび、がちょう)の生産量の増加理由と、食肉生産を支える家畜衛生・防疫の現状を紹介する記事を掲載した。その主な内容を紹介する。

1. 豚肉が安定的に増産した理由

25年、豚肉の生産量は5938万tで、例年通り食肉の約6割を占めた。近年の豚肉の安定的な増産を支えたのは、技術革新、品種改良そして管理のシステム化である。

養豚業は、初期の「海外技術の導入」からすでに「自主刷新」に移行し、機械に代わってデジタル駆動型技術が普及している。中国の畜産業でデジタルを利用しないものはない。例えば養豚大手の牧原では、自動巡回ロボットと音声制御システムとが発する疾病発生アラートの正確性が95%を超えている。広西揚翔は飼育区全域にデジタル給餌と節約システムを張り巡らし、精緻に計算した飼料配合、適切な給餌などを進めており、豚の発育状況に合わせた飼料配合の種類は以前の6段階から12段階にまで細分化され、今後も一層の効率的・効果的な給餌を目指している。

中国の90%以上の豚肉は、世界的に飼育されているデュロック、ランドレースまたは大ヨークシャーの交雑で得られたものに由来する。これらの品種が中国に導入されてから40年余り、中国は自国に合う種の選抜を進めてきた。政府が国家家畜・家禽遺伝子改良計画を継続的に推進し、優れた品種の選抜に加えてその繁殖体制も整備した結果、種豚市場に出回る豚の国産比率は95%に至った。地域固有種の産業化も進み、豚の地域ブランドの認知が進んだことで、消費市場の多様なニーズも満たされている。

豚肉価格がここ数年で大きく乱高下したため、業界は経営・生産管理を大きく変えてきた。デジタル技術を利用した管理のシステム化はさることながら、特に成果を上げてきたのは「企業+飼養農家」という産

業モデルの進展である。例えば、大手の温氏グループは全国4万3千戸の飼養農家と直接契約しており、それら契約農家の総売り上げは24年に118億元(約2715億円、1元=23.01円※2月末日TTS相場)に上った。中堅の巨星農牧も25年上半期だけで687戸の代理飼養農家に対して合計3億7700万元(約87億円)の飼育費を支払った。同社が目指すのは協力農家の収入増だけでなく、技術と管理水準の引き上げである。これら企業と飼養農家が協力する枠組みの定着は養豚業の持続的な発展に重要な役割を果たしている。

2. 家禽肉が増産した理由

家禽肉の生産は効率性と安定性が高く、食肉供給における「安定器」の役割を果たしている。24年の生産量は2660万tで、25年には2837万tと6.7%増産した。家禽産業が継続的に発展した理由は、高度集約型飼養モデルの普及、品種改良、疾病の予防・管理によるところが大きい。例えば、25年のブロイラーの立体飼育は約90%、その飼育時生存率は98%に上り、飼料効率も継続的に向上している。品種改良では、国産種である「聖澤901」などのブロイラー品種の同年の市場占有率が31%に上り、外国品種による市場占有率を上回った。

3. 食肉1億t生産を支える家畜衛生・防疫

食肉生産1億t達成の背後には、産業全体での「事を起こさない」ための取り組みがある。一見軽々しい言い方に感じられるかもしれないが、それを支えているのは膨大かつ複雑な動物防疫・リスク管理システムの構築、実施プロジェクトである。

中国の家畜衛生・防疫は主に次の三つの課題を抱えている。1) 基層政府(地方の最も基本的な政府のことを指す。日本の市町村に相応)の体制と、煩雑で責任ある業務との均衡が取れていないこと、2) 飼養主体が極めて高度に分散し、強制ワクチン接種など基礎的な防疫措置を隅々までいきわたらせるためのコストが高いこと、3) 一部の生産者の責任感と主体意識が弱いこと一である。

これらの課題に系統立てて対応してきたのが、「法令」「実施体制」「技術」「保障」という4方向からの家畜衛生・管理の枠組み構築とその運用である。

1) 法制度と責任体制の完備

法令改正によって、疾病発生状況に関する報告制度、ワクチンの強制接種、区域別清浄化制度などが整備され、家畜衛生・防疫に関する飼養主体の責任と、それを監督管理する地方政府および行政担当部門の責任とが明確にされてきた。これらの取り組みにより、例えばワクチン強制接種の対象となる疾病は抗体合格率が常に90%以上を維持している。

2) 法を執行する組織・ネットワークの強化

公的な獣医チームの存在を前提に、民間防疫サービスの利用や特任動物防疫専門員制度の創設などが大々的に試行されてきた。例えば、江蘇省、遼寧省などの地方では、省政府が民間サービスを利用する、特任専門員を招へいすることなどによって衛生・防疫の専門組織を基層政府に提供し、基層政府の人材不足を補い、防疫ネットワークをより緻密にする取り組みが行われている。

3) 技術・デジタル利用によるコントロール力向上

「インターネット+監督管理」モデルが力強く推進され、家畜衛生・防疫に関する各種証明書のノンペーパー化(紙媒体を発行しないこと)を皮切りに、輸送段階の情報管理も強化され、防疫に関する全工程で情報のオンライン化が進められている。重要な情報が全て情報システムの中で生まれ、運用されることで、生産や経営側、基層政府の人員も移動の手間が減り、書類を作成する手間も減少し、利便性が大幅に向上している。現在、衛生・防疫に関する各種申請や合格証明などはオンラインで全て実施、取得することができ、その実施率も99%に達している。オンライ

ン化が進むことで、省内または省をまたぐ家畜・家禽の移動に関する報告の実施率もそれぞれ99%、83%に達し、生産地で、輸送過程で、また目的地でのトレーサビリティ(追跡可能性)とリスク管理が大幅に向上している。

4) 財政面、緊急時対応面での保障の強化

中央政府と地方政府共にワクチンの強制接種、強制殺処分、無害化処理施設の整備などへの基礎的な財政手当を継続的に行っている。同時に、重大な疾病案件が発生したときの応急対応策の策定、緊急時に必要となる物資の準備・保管、平時の訓練など、突発的な重大案件が発生した緊急時にも速やかに対応するためのコントロール力の向上が常に図られている。

これらの取り組みにより、25年、重大な疾病案件は安定的に推移し、高病原性鳥インフルエンザの発生報告が2件、口蹄疫の発生報告が3件など、発生件数は限定的となり、かつ、発生後も速やかに対処され、疾病がまん延する前に適切に制御された。

食肉生産量1億tを達成した背景には、これら家畜衛生・防疫措置の他、食の安全や環境保全に関する取り組みがある。例えば食の安全では、家畜抗菌薬剤の使用の低減が図られ、低減行動に参加する飼養農家の数は15万戸に上り、全国の抗菌薬剤の使用量は17年に比べて6%減少した。と畜工程を含む食肉加工全工程における品質安全サンプリング調査の合格率も99.4%に達している。また、ふん尿の資源化利用では、全国全体でふん尿総合利用率が80・1%に達した。(農畜産業振興機構)

水迫畜産の牛の牛種、原産地、個体識別番号の不適正表示に対する措置—— 農水省が指示および勧告

農水省は10日、(有)水迫畜産が、牛肉の牛種について「黒毛和種」以外にも「肉専用種」、「交雑種」または「ホルスタイン種」の原料牛肉を商品の一部または全部として使用していたにもかかわらず「黒毛和牛」と表示し、牛肉の原産地について、「鹿児島県産」以外にも「沖縄県産」または「宮崎県産」の原料牛肉を商品の一部または全部として使用していたにもかかわらず「鹿児島県産」と表示し、また、特定牛肉(牛個体識別台帳に記録された牛から得られた牛

肉であって、枝肉・部分肉・精肉が該当)に事実と異なる個体識別番号を表示するなど不適正な表示を行い、ふるさと納税返礼品または一般消費者向けとして販売したことを確認したと公表した。

このため同省は、水迫畜産に対し、食品表示法および牛トレーサビリティ法に基づく、表示の是正と併せて、原因の究明・分析の徹底、再発防止対策の実施などについて指示および勧告を行った。

[資料] 家計調査 県別畜肉系総菜消費ランキング (2023 ~ 25年平均)

(単位:円)

	コロッケ	カツカツ	シュウマイ	ギョーザ	焼き鳥	ハンバーグ
1	福井市 3,519	福井市 4,282	横浜市 2,849	浜松市 4,051	青森市 5,063	浜松市 2,589
2	富山市 3,473	富山市 3,334	川崎市 1,792	宮崎市 3,478	さいたま市 3,772	那覇市 2,575
3	大津市 3,192	新潟市 3,027	東京都区部 1,705	宇都宮市 3,192	横浜市 3,690	福島市 2,364
4	浜松市 2,836	甲府市 3,013	さいたま市 1,586	大津市 2,455	山形市 3,618	静岡市 2,356
5	神戸市 2,798	那覇市 2,957	相模原市 1,510	さいたま市 2,412	東京都区部 3,551	水戸市 2,094
6	京都市 2,793	浜松市 2,912	千葉市 1,441	京都市 2,314	福井市 3,551	甲府市 2,008
7	堺市 2,776	金沢市 2,709	静岡市 1,346	大阪市 2,261	静岡市 3,535	宇都宮市 1,931
8	奈良市 2,744	仙台市 2,702	甲府市 1,339	鹿児島市 2,251	水戸市 3,432	堺市 1,930
9	金沢市 2,708	大津市 2,677	前橋市 1,285	名古屋市 2,200	甲府市 3,408	青森市 1,887
10	新潟市 2,689	さいたま市 2,566	仙台市 1,276	東京都区部 2,110	宇都宮市 3,339	福井市 1,833
11	大阪市 2,685	水戸市 2,560	大阪市 1,272	千葉市 2,076	川崎市 3,230	和歌山市 1,830
12	津市 2,655	東京都区部 2,556	浜松市 1,256	前橋市 2,070	金沢市 3,185	宮崎市 1,823
13	岐阜市 2,629	千葉市 2,513	長野市 1,248	奈良市 2,067	盛岡市 3,156	仙台市 1,803
14	静岡市 2,627	大阪市 2,491	堺市 1,235	福岡市 2,066	福島市 3,147	大阪市 1,775
15	松江市 2,594	静岡市 2,488	水戸市 1,173	福井市 2,009	相模原市 3,142	さいたま市 1,761
16	福島市 2,528	前橋市 2,477	名古屋市 1,166	静岡市 2,007	千葉市 3,123	佐賀市 1,746
17	高松市 2,521	山形市 2,469	宇都宮市 1,165	甲府市 1,991	富山市 3,118	津市 1,745
18	和歌山市 2,431	福島市 2,443	福島市 1,154	神戸市 1,986	長野市 3,113	相模原市 1,741
19	名古屋市 2,382	相模原市 2,437	大津市 1,130	堺市 1,973	札幌市 3,052	川崎市 1,740
20	川崎市 2,375	徳島市 2,428	京都市 1,109	岐阜市 1,964	秋田市 3,003	盛岡市 1,729
21	宇都宮市 2,362	堺市 2,414	新潟市 1,069	和歌山市 1,942	仙台市 2,985	東京都区部 1,720
22	横浜市 2,357	宇都宮市 2,397	山形市 1,067	岡山市 1,936	徳島市 2,983	山形市 1,717
23	鳥取市 2,357	川崎市 2,332	神戸市 1,057	相模原市 1,922	岡山市 2,829	名古屋市 1,698
24	広島市 2,324	盛岡市 2,305	奈良市 1,053	福島市 1,896	新潟市 2,798	山口市 1,676
25	長崎市 2,285	京都市 2,300	札幌市 1,002	仙台市 1,887	広島市 2,715	大津市 1,660
26	仙台市 2,258	高松市 2,255	盛岡市 977	熊本市 1,868	和歌山市 2,698	大分市 1,655
27	徳島市 2,252	名古屋市 2,244	和歌山市 968	那覇市 1,857	前橋市 2,580	新潟市 1,646
28	甲府市 2,198	横浜市 2,231	秋田市 960	松江市 1,850	浜松市 2,571	千葉市 1,643
29	さいたま市 2,189	岐阜市 2,226	津市 958	長野市 1,834	熊本市 2,516	熊本市 1,636
30	岡山市 2,170	岡山市 2,171	佐賀市 951	長崎市 1,827	福岡市 2,434	松江市 1,629
31	山形市 2,148	長野市 2,156	富山市 933	川崎市 1,816	鹿児島市 2,359	神戸市 1,614
32	千葉市 2,128	青森市 2,151	岐阜市 931	盛岡市 1,804	大阪市 2,336	富山市 1,600
33	東京都区部 2,115	和歌山市 2,104	福井市 898	富山市 1,767	松江市 2,279	京都市 1,584
34	青森市 2,070	広島市 2,095	岡山市 891	横浜市 1,762	宮崎市 2,245	福岡市 1,544
35	松山市 2,061	熊本市 2,061	青森市 889	広島市 1,731	山口市 2,238	岡山市 1,523
36	盛岡市 2,019	神戸市 2,052	金沢市 816	水戸市 1,722	堺市 2,220	長崎市 1,522
37	水戸市 2,016	宮崎市 2,010	松江市 810	津市 1,721	長崎市 2,206	前橋市 1,507
38	長野市 1,976	山口市 1,956	広島市 785	新潟市 1,700	岐阜市 2,135	岐阜市 1,495
39	山口市 1,945	大分市 1,936	福岡市 764	高松市 1,682	名古屋市 2,120	高松市 1,487
40	相模原市 1,935	奈良市 1,929	高松市 748	青森市 1,679	鳥取市 2,097	札幌市 1,483
41	佐賀市 1,932	松江市 1,914	山口市 710	金沢市 1,670	大分市 2,092	金沢市 1,483
42	大分市 1,874	秋田市 1,906	北九州市 665	山口市 1,669	高知市 2,042	北九州市 1,435
43	前橋市 1,861	佐賀市 1,871	熊本市 654	札幌市 1,647	佐賀市 1,989	秋田市 1,411
44	高知市 1,854	鳥取市 1,848	鳥取市 646	松山市 1,640	高松市 1,953	高知市 1,354
45	熊本市 1,844	津市 1,830	徳島市 638	大分市 1,625	大津市 1,925	奈良市 1,351
46	宮崎市 1,819	鹿児島市 1,736	長崎市 625	北九州市 1,618	神戸市 1,823	横浜市 1,329
47	鹿児島市 1,724	高知市 1,702	松山市 581	佐賀市 1,603	北九州市 1,779	徳島市 1,290
48	秋田市 1,713	長崎市 1,697	宮崎市 552	徳島市 1,581	奈良市 1,763	鹿児島市 1,277
49	福岡市 1,641	札幌市 1,590	高知市 519	鳥取市 1,568	松山市 1,694	広島市 1,266
50	北九州市 1,613	松山市 1,561	鹿児島市 497	秋田市 1,501	京都市 1,652	鳥取市 1,228
51	那覇市 1,593	北九州市 1,541	大分市 494	山形市 1,445	津市 1,513	松山市 1,172
52	札幌市 1,422	福岡市 1,520	那覇市 477	高知市 1,243	那覇市 1,270	長野市 1,127

出典: 総務省家計調査 (二人以上の世帯) 品目別都道府県庁所在市及び政令指定都市ランキング

[資料] 日本食肉流通センター週間市況 〈和牛・交雑牛・乳牛チルド〉

(令和8年3月1日~3月7日)

(単位:キログラム当たり円、税込み、重量kg)

		第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み 平均値	取引重量		第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み 平均値	取引重量		
		和牛チルド「4等級」	首都圏	3,308	4,050	4,860		4,080	6,691	近畿圏	3,564	3,879	4,644	3,975
		3,456	3,683	4,028	3,707	9,211		3,348	3,672	4,050	3,699	7,126		
		2,160	2,268	3,456	2,459	2,398		2,229	2,299	2,980	2,501	1,549		
		-	-	-	-	242		-	-	-	-	-		
		8,424	9,612	10,260	9,467	1,877		8,640	9,504	10,127	9,393	2,478		
		5,400	6,264	6,912	6,246	2,165		5,400	5,458	5,832	5,538	6,663		
		5,472	5,601	5,786	5,610	2,139		-	-	-	-	582		
		1,837	2,181	2,728	2,268	12,091		1,858	2,766	3,240	2,556	9,966		
		3,882	4,152	4,152	4,051	3,902		3,851	4,277	4,320	4,207	2,404		
		3,990	4,015	4,320	4,076	3,853		3,780	4,277	4,320	4,236	2,533		
		3,999	4,187	4,428	4,139	2,609		3,888	4,277	4,320	4,211	2,986		
		3,240	3,966	4,021	3,747	4,793		3,572	3,699	3,704	3,655	1,009		
		1,987	2,052	2,121	2,057	2,411		2,052	2,160	2,269	2,145	3,374		
		3,977	4,104	4,245	4,085	10,934		3,456	3,672	3,956	3,700	12,604		
		3,802	4,277	4,936	4,322	30,390		3,456	3,824	5,058	3,916	18,468		
	重量合計						95,706							80,981
和牛チルド「4等級」	中京圏	3,132	3,456	4,050	3,498	1,260	九州圏	-	-	-	-	962		
		3,186	3,672	3,780	3,608	2,219		-	-	-	-	916		
		2,160	2,714	2,916	2,577	1,484		-	-	-	-	646		
		-	-	-	-	673		-	-	-	-	168		
		4,482	5,184	5,940	5,033	2,527		-	-	-	-	473		
		1,674	1,782	1,836	1,786	4,579		1,728	1,989	3,089	2,098	2,618		
		-	-	-	-	-		-	-	-	-	691		
		-	-	-	-	-		-	-	-	-	490		
		-	-	-	-	-		-	-	-	-	386		
		-	-	-	-	-		-	-	-	-	360		
		-	-	-	-	-		-	-	-	-	459		
		-	-	-	-	-		855	-	-	-	-	-	
		3,637	4,428	5,028	4,413	8,322		8,322	3,497	3,704	4,199	3,816	7,357	
重量合計						21,919							15,526	

(令和8年3月1日~3月7日)

交雑牛チルド「3等級」	首都圏	2,484	2,970	3,105	2,907	12,949	近畿圏	2,836	2,862	3,231	2,934	15,071	
		2,484	2,700	3,008	2,701	8,462		2,392	2,560	2,786	2,552	11,080	
		1,782	2,578	2,874	2,413	3,222		1,621	1,664	2,523	1,678	3,738	
		6,083	6,346	6,480	6,326	4,106		6,264	6,875	7,020	6,793	3,773	
		4,104	4,397	4,482	4,359	1,895		4,495	4,590	4,860	4,659	6,186	
		1,512	1,944	3,030	2,148	9,518		1,512	1,620	2,173	1,655	12,927	
		2,484	2,592	2,729	2,591	5,082		2,484	2,646	2,804	2,635	5,360	
		2,592	2,754	2,899	2,726	3,086		2,484	2,646	2,831	2,655	5,792	
		2,592	2,754	3,108	2,764	3,345		2,511	2,662	2,726	2,647	5,493	
		2,268	2,325	2,621	2,326	2,496		2,322	2,484	2,527	2,463	6,365	
		1,620	1,728	1,836	1,710	3,725		1,620	1,818	1,972	1,810	5,524	
		-	-	-	-	-		2,538	2,784	2,959	2,739	10,853	
		2,863	3,173	3,510	3,218	28,354		2,441	3,060	3,441	3,032	36,659	
重量合計						86,240							128,821

乳牛チルド「3等級」	首都圏	2,470	2,808	3,227	2,839	3,057	近畿圏	2,354	2,486	3,024	2,594	7,296	
		-	-	-	-	805		2,020	2,160	2,350	2,174	4,710	
		-	-	-	-	-		-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-		2,114	2,711	2,894	2,731	1,069	
		-	-	-	-	-		1,350	1,404	1,566	1,413	2,909	
		5,292	5,504	5,832	5,489	1,495		4,860	5,616	5,996	5,465	2,541	
		-	-	-	-	897		3,240	3,456	4,158	3,440	4,598	
		1,404	2,797	3,132	2,419	2,370		1,404	1,572	2,270	1,697	4,545	
		2,106	2,160	2,322	2,215	1,578		2,106	2,138	2,268	2,168	5,050	
		2,106	2,268	2,393	2,280	1,006		1,998	2,106	2,106	2,070	2,801	
		2,052	2,268	2,273	2,195	1,116		1,998	2,068	2,160	2,080	3,036	
		1,149	1,944	2,241	1,934	1,645		1,998	2,106	2,160	2,093	2,270	
		1,512	1,588	1,742	1,614	2,202		1,674	1,796	2,214	1,845	5,020	
2,529	2,808	2,808	2,784	11,940	1,851	2,052	2,260	2,071	30,300				
重量合計						28,111							76,145

東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 3月11日
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1		
和牛	雌 A	高値	3,358	2,745	-	-	-	
		安値	2,415	2,318	-	-	-	
		平均	2,777	2,508	2,379	-	-	
	72頭	頭数	60	11	1	-	-	
		雌 B	高値	2,455	2,403	-	-	-
			安値	2,331	1,955	-	-	-
	平均		2,391	2,238	-	-	-	
	4頭	頭数	2	2	-	-	-	
		去 A	高値	5,819	2,555	2,487	1,737	-
			安値	2,348	2,433	2,266	1,729	-
	平均		2,686	2,490	2,408	1,731	-	
	198頭	頭数	163	26	6	3	-	
去 B		高値	-	-	-	-	-	
		安値	-	-	-	-	-	
	平均	-	-	-	1,731	-		
1頭	頭数	-	-	-	1	-		
	乳牛	雌 B -頭	平均	-	-	-	-	
		雌 C -頭	平均	-	-	-	-	
去 B -頭		平均	-	-	-	-		
交雑牛	雌 B	平均	-	1,684	1,646	1,558	-	
		頭数	-	3	7	4	-	
		雌 C	平均	-	-	1,593	1,487	-
	頭数		-	-	3	1	-	
	去 B		平均	1,870	1,766	1,675	1,629	-
		頭数	2	2	8	2	-	
		去 C	平均	-	-	1,595	-	-
	頭数		-	-	2	-	-	

	牛	豚	搬入牛	搬入豚		その他
と畜	403	841	-	(競り)	(相対)	
売買	407	718	223.0	-	9	80

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌	A	2,382	1,926	1,717	1,640	-
	B	-	1,731	1,665	1,576	1,530
和 去	A	2,469	2,405	-	-	-
	B	-	-	-	1,506	-
乳 雌	B	-	-	-	-	1,066
	C	-	-	-	1,056	1,057
乳 去	B	-	-	-	1,327	-
	C	-	-	-	-	1,104
交 雌	B	1,793	1,667	1,627	1,624	-
	C	-	-	1,577	-	-
交 去	B	1,695	1,685	1,651	-	-
	C	1,733	-	1,604	1,504	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	704	797	719	672	639
	安値	669	637	609	424	141
	平均	681	676	648	621	454
	頭数	(3)	(156)	(263)	(151)	(145)
搬入競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	頭数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
搬入相対	高値	-	-	-	-	496
	安値	-	-	-	-	496
	平均	-	-	-	-	496
頭数	(-)	(-)	(-)	(-)	(9)	

[大阪食肉卸売市場] 3月11日
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) []は豚規格

	5 [極上]	4 [上]	3 [中]	2 [並]	1 [等外]
和 雌 A	2,534	-	-	-	-
(頭数)	(11)	(2)	(1)	(2)	(-)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	(-)	(-)	(-)	(1)	(-)
和 去 A	2,495	2,379	2,113	-	-
(頭数)	(12)	(6)	(3)	(-)	(-)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	-	1,728	1,707	1,603	-
C	-	-	-	-	-
交雑去 B	1,927	1,832	1,716	-	-
C	-	-	1,652	1,620	-
豚	-	663	644	591	488

[全国と畜概算頭数]
農水省統計部発表 (頭)

	3月11日	3月10日	(3月累計)
豚	64,200	65,500	516,400
成牛計	4,460	4,440	35,010
和牛雌	1,000	1,040	7,990
和牛去勢	1,220	1,260	9,700
乳牛雌	680	930	5,270
乳牛去勢	430	440	3,530
交雑雌	560	380	4,230
交雑去	570	390	4,280

[去勢牛 B3・2 規格 枝肉取引価格] 3月11日

東京	1,647 円 (前日 1,632 円)
大阪	1,680 円 (前日 1,686 円)

[豚・全農建値] 3月11日

上	中	取引頭数	市況
685 円	644 円	1,218 頭	急伸

と畜	牛	豚	牛概況	もちあい
売買	76 頭	92 頭	豚概況	まちまち
	69 頭	94 頭		

各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 3月11日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	637 (616)	- (-)	5,671	-	上伸
仙台 [中]	627 (583)	602 (558)	562	65	反発
栃木 [地]	676 (-)	640 (-)	1,660	71	上伸
茨城 [地]	686 (659)	656 (634)	1,305	603	続伸
群馬 [地]	673 (674)	572 (614)	1,816	388	弱含み
さいたま [中]	719 (670)	655 (660)	106	109	急伸
東京 [中]	676 (664)	648 (649)	841	718	上伸
横浜 [中]	662 (655)	629 (631)	666	659	反発
山梨 [地]	653 (704)	639 (678)	180	142	まちまち
浜松 [地]	- (-)	- (-)	-	-	競り休止
名古屋 [中]	608 (586)	585 (576)	902	161	反発
京都 [中]	- (619)	- (606)	-	-	休市
大阪 [中]	663 (-)	644 (717)	92	72	まちまち
神戸 [中]	- (643)	- (638)	135	-	上場なし
岡山 [地]	618 (626)	614 (616)	316	373	弱含み
広島 [中]	622 (615)	627 (576)	287	56	続伸
福岡 [中]	622 (615)	591 (584)	432	131	続伸

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

[日本食肉流通センター] 3月4日～3月10日
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 1,687,110 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,117	1,184	1,268	1,188	65,005
うで	735	756	795	758	133,135
ロース	1,026	1,058	1,184	1,090	126,535
ばら	1,204	1,244	1,274	1,243	138,461
もも	741	769	813	772	186,714
ヒレ	971	1,015	1,185	1,037	15,151
セット	947	1,012	1,103	1,015	1,022,109

◇近畿圏 総重量 769,797 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,188	1,325	1,356	1,301	61,331
うで	672	724	796	719	123,401
ロース	1,080	1,206	1,244	1,187	100,543
ばら	1,237	1,296	1,351	1,292	125,969
もも	707	712	786	724	183,827
ヒレ	1,077	1,134	1,274	1,162	14,047
セット	901	990	1,103	1,000	160,679

[食鳥正肉日経相場] 3月10日
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (8社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	745	832	1,003	164
ムネ	455	516	675	172

◇大阪 (2社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	750	820	1,050	4
ムネ	453	507	610	3

[農水省統計情報部食鳥市況] 3月10日
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽ト	手羽キ	ササミ
高値	10日分は13日掲載				
安値					
平均					

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日中間(1週間分)に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ(単価・重量)を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値(加重平均値)。

国内で唯一、最大級の食肉総合見本市

第50回

2026食肉産業展

2026 Japan Meat Industry Fair 50th.



半世紀の集大成を
未来へつなぐ

圧倒的
開催規模!!



フード業界が最も注目
する国内最大規模の
総合見本市

会期

2026年 3月10日(火) ⇒ 13日(金)

会場

東京ビッグサイト

主催 ● 食肉産業展実行委員会

後援 ● 農林水産省、厚生労働省ほか

食肉産業展事務局 株式会社食肉通信社 TEL.03-6206-0929

食肉産業展HP <https://www.shokuniku-sangyoten.jp>



ご来場の際は左のQRコードより、必ず事前登録をお願いします。

[事前登録URL] <https://www.jma-tradeshows.com/foodex/jp/registration.php?exhibitor=EX001472>

同時開催

アジア最大級の
食品・飲料総合展示会



The 51st International Food and Beverage Exhibition
FOODEX JAPAN 2026
51 国際食品・飲料展